

平成31年度東京都立富士高等学校学校経営報告

31年度の学校の目標	実施内容
1 授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○難関国公立大学・私立大学合格に必要な学力を育む授業を推進するため、学力テスト分析を組織的に実施した。 ○富士アカデミー（発展的内容の講習）、富士サポート（基礎・基本の定着を図る講習）に加え、早朝や放課後、土曜日の講習を計画的に実施した。 ○高校1年生及び2年生について、朝のSHR後の時間を活用した朝学習が定着している。 ○ディベート、グループ学習、共同学習など、相互に意見を発表する場を設け、生徒のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上を図る授業を実施した。 ○教育用ICT機器を活用した授業を、地歴・公民、数学、理科、情報、外国語で効果的に実施。わかる授業、学力が身に付く授業を推進した。 ○進路学力部が所掌する学力分析会を、全教員の悉皆研修として計画的に実施した。 ○教科の枠を越えて、成果と課題の分析を行い、指導方法の改善に生かした。 ○自習室は、平日は19:00まで、長期休業日等は8:30から17:00まで開放し、生徒の自主的学習を支援した。 ○長期休業日中は、補習、講習を計画的に実施し、夏季は71講座を開講。高校3年生は主に受験対策、高校1・2年生は基礎学力の定着、応用力の伸長を行った。 ○外部人材による自主学習支援事業を活用し、東大、東工大、一橋大学生による学習支援を年間256.5時間実施し、生徒の学力向上に努めた。 ○ルーブリックを作成することにより、授業内容の可視化を促進させた。
2 進路支援	<ul style="list-style-type: none"> ○富士シラバスをHP上に公開、各授業担当者が年間授業計画や評価の観点等を説明、評価方法の明確化及び定着を図った。 ○学力テスト等結果分析会を年間6回実施。外部講師による現状分析・学力把握に基づき、生徒一人一人の指導・支援に生かした。 ○各担任は、Classiを通し、自宅学習時間記録調査等の結果を踏まえた生徒面談を実施、自己理解の深化や大学志望学部選択、学習意欲向上を支援した。 ○高校3年生を対象にした志望校検討会を年間2回実施し、志望大学の決定や受験対策等、きめ細かな指導に生かした。 ○キャリア講演会を計画的に実施した。 ○望ましい職業観を育むとともに、将来の在り方生き方を考える契機とするなど、キャリア教育の充実を図った。 ○教科主任会を年間3回開催し、授業の目標設定、学習の定着度を確認しながら、学力向上策の目線合わせ・具体化を図った。
3 生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ○品位あるみだしなみを促す指導を行った。 ○服装に関するルールを明確にし、品位や感性の向上を図り、ルールやマナーを守る態度を身に付けさせる指導を継続する。 ○清美委員会による教室美化点検活動を組織的に実施した。 ○宿泊防災訓練や防災徒歩避難訓練を実施し、防災意識を向上させた。 ○集団での秩序ある行動や規律の必要性、自助・共助の大切さを考えさせる指導を行った。
4 特別活動、部活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の部活動加入率は100%である。 ○スポーツ特別強化校予算、部活動振興予算、文化部推進校予算、青少年を育てる課外活動支援事業予算等を有効に活用し、全校で協力して部活動の振興を図った。 ○薙刀部、陸上部が全国大会出場、薙刀部、剣道部、陸上部が関東大会出場を果たした。 ○茶道部が全国高校生伝統文化フェスティバルに参加した。 ○体育祭、文化祭、合唱祭の3大行事について、実行委員会を組織させ、生徒が主体的に運営する指導を行った。 ○3大行事を附属中学校と同時開催することにより、6学年総勢約1,000名の生徒を指揮させることで、自主自律の精神及び協力する姿勢を育んだ。 ○高校1年生は奉仕体験活動でJAきみつ、君津亀山少年自然の家にてサツマイモの種まき体験を行い、日本の農業の今後について考えるとともに、互いに協力する態度や思いやりの心、奉仕の精神を育んだ。 ○近隣の特別支援学校でのボランティア活動を実施、地域との連携を深め、生徒の社会貢献の精神を育んだ。 ○ごみの分別・減量や校内美化について、保健部が生徒委員会活動を指導し、校内美化の達成に成果を上げた。
5 学校PR	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度に引き続き、併設型中高一貫教育校グループ作成問題解説授業や平日及び土曜日の学校見学を計画的に実施した。 ○学校説明会、体験授業、体験部活動、授業公開週間、出前授業について、全校を挙げて組織的に取り組み、本校の教育活動の様子を外部に積極的に発信した。 ○中学生やその保護者が求める情報等を把握、適切に提供できるよう説明会実施後にアンケート調査を実施、改善に生かした。 ○入学者選抜における応募者数増加を図るため、地域の中学校等が主催する上級学校説明会に積極的に参加した。

6 中高一貫教育校の 確立	<p>○中高合同での企画調整会議、職員会議、分掌会議を計画的に実施。</p> <p>○中高籍にかかわらず、教科指導の相互乗り入れを推進し、授業、補習、講習、集中講座等を中高が一体となって実施した。</p> <p>○中高一貫教育校の特色化を推進する取組として、オーストラリアへの短期語学留学を計画どおり実施、国際交流の推進を深めた。</p> <p>○理数アカデミー校4年目として、25年度入学生から導入した探究力育成のための学校設定科目「探究未来学」を中心として内容の充実を図るとともに、9月に中間発表会を実施した。</p>
------------------	---

【31年度の主な数値】

() 内の数字は30年度

- (1) 大学入試センター試験において、
5教科型の受験者を110名（在籍者の55%）以上にする。50.1%（前年度43.5%）
5教科型の受験者のうち、得点率80%以上の者を20人以上にする。18人（前年度24人）
5教科型の受験者平均点を650点とする。590点（前年度632点）
- (2) 難関国立大学現役合格者数を5名以上、国公立大学現役合格者数を50名以上にする。6名 35名（前年度4名、32名）
- (3) 難関私立大学（早慶上理）現役合格者数を75名以上にする。57名（前年度54名）
- (4) 夏季講習を100講座以上実施し、難関大学講座を20講座開講する。
- (5) 探究未来学で自分のテーマに関する専門書を一人一冊以上読ませる。
- (6) 年間皆勤及び年間精勤の生徒の割合を各学年50%以上にする。
- (7) 学校評価アンケートの項目「私は部活動や学校行事に満足している」に対する生徒の肯定的な評価を85%以上にする。
- (8) 土曜日の授業公開（土曜日の学校説明会も含む）合計来校者数を3500名以上にする。 3850人（前年度3201名）
- (9) 受検応募倍率を、推薦に基づく選抜3.0倍以上、第一次募集1.6倍以上にする。
推薦 1.50倍、第一募集 1.27倍
（前年度 推薦:2.56倍、第一次募集:1.39倍）
- (10) 部活動の個人・団体での関東大会・全国大会出場を5以上とする。5
- (11) 新体力テストの平均値を全国平均以上に高める。5項目優良 2項目平均以下（前年度体力合計点が平均点以上）
- (12) 部活動加入率を100%以上を維持する。100%（110%）
- (13) 体罰事故を0件とする。0件（0件）

自己評価

○学習・進路指導

- ・学力の着実な定着を図るため、スモールステップによるきめ細かな指導を行うことは、一定の効果を上げた。
- ・考查と学力テストを連動させ、生徒が効率よく計画的に学習を進めることができるよう、引き続き指導を行う。
- ・今年度は、教科主任会を年3回開催した。会議においては、進路学力部主任、教務情報部主任を参加させ、教科の枠を超えた全校的な視点で課題を把握・整理し、改善策を具体化する体制を継続して整備している。
- ・都教育委員会の進学対策指導訪問による指導・助言内容を教科主任会での協議に反映、生徒の学力向上を図る取組として具体化した。
- ・放課後や授業のない土曜日を中心に大学生を配置、質問や進路相談等の自主学習支援を行った。
- ・自習スペースは19時まで開放、部活動後に部単位で利用するなど活用されている。

○募集対策等

- ・高校募集の停止（中等教育学校への移行）が決定したことから、今年度最後となる高等学校受検者を確保するため、中学校へのパンフレット送付に加え、学校行事のない土曜日に見学会を行った。

○特別活動

- ・部活動においては、加入率は兼部を含め100%を維持した。
- ・部活動振興予算等を活用し外部指導員を導入するなど、運動部、文化部の活性化を図っている。
- ・剣道部は関東大会に、薙刀部、陸上部は関東・全国大会に出場した。この3部はスポーツ特別強化校として、錬成に努めている。
- ・茶道部は東京都高等学校文化連盟加盟校として種々の茶会への参加、管弦楽部は式典での演奏、定期演奏会の開催、科学探究部はサイエンスアゴラへの出展等、文化部も成果を上げている。
- ・今後も文武両道、自主自律の校訓のもと、部活動や学校行事の活性化に努める。